

平成29年度 高浜市立吉浜小学校の取組

学校教育 目標	強いからだと美しい心をもった児童を育成する。 ○考える子 ○健康な子 ○素直な子 【目指す子ども像】 「自分の言葉で語るここのできる子」	〈学校の使命〉 自立した大人になるための基盤をつくる。 〈経営展望〉 自信と希望をもって中学校へ進むことができるための学びを保証する教育を追究し続ける学校である。
------------	--	---



教職員（組織）の 姿	① 常に「児童の学びを保証する」ことを念頭に置き、日々の教育活動に取り組む教職員である。 ② 日々研鑽を重ね、協働し、互いに高め合うことができる教職員集団である。 ③ 教育公務員としての自覚をもち、児童に対し率先垂範する教職員である。
---------------	--

経営展望実現に 向けての現状と 今年度の位置づ け	本校の児童が、中学校へ自信と希望をもって進むことができるために、引き続き「自分の言葉で語るここのできる子」を目指す子ども像とする。昨年度は、児童を直接育てる方策とともに、学校組織の成熟を中心とした経営方針を立てたが、第1の柱である授業力向上に関する主題研究の取組について、伸びしろがあることが分かった。そこで、今年度は、新学習指導要領の方向を見据えた授業力向上の追究を中心に、目指す子ども像にせまる。子どもの具体的な姿として「①よく聞き、よく考え、よく語る子 ②主体的に活動する子 ③感謝する心をもつ子」を継続して掲げる。自信と希望をもって中学校へ進むことができるための学びを保証する教育を追究し続ける学校であるために、「授業力が向上する主題研究体制の構築」、「目標管理による学年・学級経営の展開」、「児童の主体的な活動を育む支援体制の強化」、「地域の方々とともに地域愛を育む教育活動の構築」の四つを学校経営の柱とし、PDCAサイクルを活用して高めていくことができる学校の体制をつくっていく。
------------------------------------	---



経営 方針 と その 考 え 方	①授業力が向上する 主題研究体制 の構築	自信と希望をもって中学校に進むために、児童同士がかかわり合う中で、相手の考えを受け止め、自分の考えを自分の言葉で語るここのできる学びを保証する教育を追究することが重要であると考え。このために、学校生活の大半を占める授業について、主題研究推進委員会を中心として研究を進め、教職員の授業力を向上させることが、経営展望実現に向けての第1の柱となる。 ・年2回の全体授業研究を通して向上していくように、PDCAサイクルを活用して主題研究をマネジメントする。 ・「教職員の自己評価3段階」及びその結果を、主題研究のマネジメントと各教職員の授業改善に活用する。 ・朝の読書、聴き方・話し方の指導、学習の振り返り活動を継続的にを行い、主題研究で目指す授業の基礎づくりをする。
	②目標管理による 学年・学級経営 の展開	授業と学級経営は切り離せないものであり、安定した学級経営があつてこそ授業の質を高めることができる。また、授業での学びの高まりが学級を成熟させていく。六年間の児童の成長を見据えて、各学年末での児童のあるべき姿を目指し、児童の成長をつなげていくことができる学年・学級経営を保証することが、経営展望の実現に向けての第2の柱となる。 ・安定して授業の質を高められる学級に育てていくための学級経営上の教員自身の課題と目標を明確にし、PDCAサイクルで学年・学級経営を進めていく。 ・児童にとって居心地のよい安心な場所となる学級に育てるため、現状を振り返り、手だてを更新しながら指導を進める。児童が互いのよさを認め合うスピーチタイムや授業での話し合い活動を、安定して授業の質を高められる学級づくりの柱として位置付ける。
	③児童の主体的な 活動を育む支援 体制の強化	自信と希望をもって中学校に進むためには、自分で自分を育てるという主体的な態度を身に付ける学びを保証する必要がある。この学びを保証する教育を追究するために、学校行事や児童活動への支援体制を強化していくことが第3の柱になる。 ・児童が自分たちで考えて実行し、自分たちの活動を振り返って次の活動につなげていくことができるような学校行事・児童活動・学級活動を位置付けていく。 ・自分の言葉で語る力を養うことができるような、異学年交流や異校種交流を行う。
	④地域の人々と ともに地域愛を 育む教育活動の 構築	地域の一員として自立した大人になるために、地域を愛し、地域に貢献しようとする心が育つ学びを保証することが必要である。この学びを保証する教育を追究するために、地域行事や伝統文化が多い吉浜地区の強みを生かし、地域の方々とともに児童を育ていく教育体制を整えることが第4の柱となる。 ・地域の方へ感謝する気持ちや地域に貢献しようとする気持ちを育むことができる活動を、地域の方との意思疎通を図り、教育課程に位置付けていく。 ・学校だより・学年だより・ブログなどで、学校から保護者や地域に積極的に情報発信するとともに、地域、保護者の意見を学校運営に生かし、協働して学校づくりをする。

経営方針	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	成熟度による成果指標			取組指標 概ね8割以上の達成でA 6割以上の達成でB それ以下はC
① 授業力が向上する 主題研究体制の構築	児童がかかわり合いながら話し合い、自分の考えを深めていく授業ができています。	児童が自分の考えをもち、他の児童の考えを受け入れながら、自分の考えを自分の言葉で語ることができ、学級全体で練り合う授業ができている。	・ 全体授業研究を2回行い、主体的・対話的で深い学びができる授業のあり方を研究し、各学級で実践する。 【講師料 全体研究授業 3万円×2】	全体研究のマネジメント	三段階	2回の全体授業をPDCAサイクルを活用し、前回の反省点を次の全体授業に生かしている。	・ 学年に応じて、授業の中で、学級で練り合いながら、自分の考えを深めることができている児童が増えている。 (活動の様子・教員による分析)
			・ 「教職員の自己評価3段階」を念頭に置き、自分の指導を振り返りながら、次の段階を目指して授業を進める。	自己評価3段階の活用	二段階	主題研の目標に合わせて、全体授業を2回行っている。	
					一段階	全体授業を2回行うことができていない。	
					三段階	自己評価3段階を主題研究とかかわらせ、組織的に活用している。	
② 目標管理による学年・学級経営の展開	児童の六年間の成長の中で今の学年の位置を考え、卒業時の姿を見据えた学級経営ができています。	学年末の児童のあるべき姿を目標として、次の学年につながる学級経営ができています。	・ 朝の読書を継続して進め、児童の視野を広げ、考えを深めさせる。	主題研究で目指す授業の基礎づくり	二段階	個々の教師の指導力アップに生かしている。	・ 8割以上の教職員が、中堅以上のレベルに達している。 (教員自己評価)
			・ 「聴き方名人」、「話し方名人」を掲示し、指導することで学習の基礎をつくる。		一段階	評価だけして、指導力アップに生かされていない。	
			・ 学習の振り返り活動を行い、前時の学習を生かして授業に臨む。		三段階	朝の読書や聴き方・話し方、学習の振り返り活動を継続的にやり、主題研究の目標達成につなげている。	
			・ 授業力・学級経営力を高めるために、自己評価シートに具体的な目標を設定し、実践する。		二段階	朝の読書や聴き方・話し方、学習の振り返り活動に取り組んでいるが、主題研究と結びついていない。	
			・ 学級の現状をとらえながら、常に課題と目標を明確にし、自己向上力のあるクラスにするためのシステムを作り、学級経営を進める。	経営方針に則した自己評価シート	一段階	朝の読書や聴き方・話し方、学習の振り返り活動についての取組が継続的にされていない。	・ 発達段階に応じた本を読み、自分の考えをもつ基礎づくりになっている。 (活動の様子・児童アンケート)
					二段階	朝の読書や聴き方・話し方、学習の振り返り活動に取り組んでいるが、主題研究と結びついていない。	
					三段階	二つの目標区分とも、本年度の経営方針に準じた内容になっている。	
					一段階	一つの目標区分が、経営方針に準じた内容になっている。	
			・ 児童にとって居心地のよい安心な場所となる学級に育てるため、児童が互いのよさを認め合うスピーチタイムや授業での話し合いを学級づくりの柱とし、級友の思いを受け止め、自分の思いを自分の言葉で語ることができる学級づくりをする。	PDCAサイクルを活用した学級経営	三段階	学校の重点目標を踏まえ、自己評価シートに具体的な目標を立てて実践し、達成基準を上回っている。 (自己評価シート)	・ 学校の重点目標を踏まえ、自己評価シートに具体的な目標を立てて実践し、達成基準を上回っている。 (自己評価シート)
					二段階	二つの目標区分とも、本年度の経営方針に準じた内容になっている。	
					一段階	一つの目標区分が、経営方針に準じた内容になっている。	
					三段階	二つの目標区分とも、本年度の経営方針に準じた内容になっている。	
			・ 児童にとって居心地のよい安心な場所となる学級に育てるため、児童が互いのよさを認め合うスピーチタイムや授業での話し合いを学級づくりの柱とし、級友の思いを受け止め、自分の思いを自分の言葉で語ることができる学級づくりをする。	スピーチや話し合い活動を柱とした学級づくり	三段階	目標管理による半期ごとのPDCAサイクルで学級経営を進めている。	・ 担任の思いが児童に伝わり、学級目標を意識しながら、自己向上力のある学級の姿になっている。 (教員自己評価・児童アンケート)
					二段階	目標は定めているが、前期の反省を後期の経営に生かしていない。	
					一段階	目標管理による学級経営ができていない。	
					三段階	スピーチ活動や話し合い活動が、安心して話し合える学級づくりに生かされている。	
			・ 児童にとって居心地のよい安心な場所となる学級に育てるため、児童が互いのよさを認め合うスピーチタイムや授業での話し合いを学級づくりの柱とし、級友の思いを受け止め、自分の思いを自分の言葉で語ることができる学級づくりをする。	スピーチや話し合い活動を柱とした学級づくり	二段階	スピーチ活動や話し合い活動は行っているが、学級の人間関係づくりに生かされていない。	・ 自分が思ったことを抵抗なく話すことができ、聞き手も話し手の考えを理解しようとしている。 (活動の様子・児童アンケート)
					一段階	スピーチ活動や話し合い活動があまり行われていない。	
					三段階	スピーチ活動や話し合い活動が、安心して話し合える学級づくりに生かされている。	
					二段階	スピーチ活動や話し合い活動は行っているが、学級の人間関係づくりに生かされていない。	

③ 児童の主体的な活動を育む支援体制の強化	各行事・各活動が、児童自ら推進していることを実感できるものになっている。	児童計画委員会、学年行事、委員会活動などが、児童自ら反省を行いながら次の活動につなげる主体的な活動になっている。	・ 児童会行事、学年行事、委員会活動などにおいて、児童の考えで企画・運営し、前の活動を自分たちで振り返りながら次の活動につなげていく。	児童が主体的に動く行事や交流活動	三段階 児童が自分たちの活動を振り返って次の活動につなげている。	・ 児童の考えが行事や活動に生かされ、やり遂げた満足感と次の活動への自信をもつことができる。 (活動の様子・児童アンケート)
		異学年交流や幼稚園保育園・中学校・地域との交流が、発表の仕方や聞き方を学び、相手の思いを受け止めながら、自分の考えや思いを自分の言葉で伝えられる活動になっている。	・ 生活科や総合的な学習の時間などで、異学年や幼稚園保育園・中学校・地域との交流を設定し、意見発表、活動発表の力を養う。 【教育基本構想推進事業委託料 8万円】		二段階 自分たちの考えで活動を進めているが、次の活動へのつながりが少ない。	
④ 地域の人々とともに地域愛を育む教育活動の構築	地域の人々に感謝し、地域のために働くことができる児童を育てる活動が、学校と地域が協働して行っている。	ふるさとに愛着をもち、地域の方々に感謝する心をもつ児童を、学校と地域が協働して育てている。	・ 生活科の野菜作りや町探検、菊の一人一鉢栽培や菊人形作りなどで、地域のより多くの方々と学校が意思の疎通を図り、活動の意義を明確にして取り組む。 【菊作り用土、肥料等 1万円】	地域と学校の協働による授業づくり	一段階 教師主導の活動になっている。	・ 自分で考えた発表ができ、活動を通して成長したことを実感している。 (活動の様子・児童アンケート)
		地域ぐるみで心豊かな児童を育てるために、学校だけでなく、学年だより、ブログなど、学校からの情報発信に努めるとともに、地域、保護者の意見を学校運営に生かしている。	・ 各種たよりやブログを定期的に発行する。また、PTA新聞を地区に回覧することで、保護者や地域の人に、学校の様子を知らせる。 ・ PTA理事会、学校関係者評価委員会、保護者アンケートなどで、学校に対する意見を収集する。 ・ 防災・防犯に関する学校の取組に対し、まち協や町内会の協力が得られるよう計画する。		三段階 異学年交流や異校種交流が、相手の思いを考えながら自分の思いを自分の言葉で伝える場となっている。	
				学校づくりに生かす情報発信	二段階 交流が自分の言葉で伝えるだけの場になっている。	・ 各学年での体験活動や地域行事への参加を通して、地域のことを理解し、地域の方々に感謝する心をもつ児童が育っている。 (活動の様子・児童アンケート)
					一段階 異学年交流や異校種間交流があまり行われていない。	
					三段階 地域のより多くの方々と学校が協働して児童を育むことができる活動を教育課程に位置づけている。	・ 教職員や友達だけでなく、来客や地域の人にも、丁寧な挨拶や対応ができている。 (活動の様子・児童アンケート)
					二段階 地域の方々と活動は行われているが、地域または学校の一方的な考えで行われている。	
					一段階 地域の方々と活動があまり行われていない。	・ 各学年での体験活動や地域行事への参加を通して、地域のことを理解し、地域の方々に感謝する心をもつ児童が育っている。 (活動の様子・児童アンケート)
					三段階 保護者、地域の方に学校の情報を発信し、また保護者、地域の意見を学校運営に生かしている。	・ 教職員、保護者、地域の方が、地域に開いた学校であると感じている。 (保護者アンケート、教職員アンケート、学校関係者評価等)
					二段階 情報は発信しているが、保護者、地域の意見を学校運営に生かしていない。	
					一段階 学校の情報を、十分に発信していない。	・ 児童の安全のために、防災や防犯活動を、保護者やまち協、町内会と協力して進めている。 (学校関係者評価、活動の様子)